

NEWS23 週刊報告 ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：7/16～7/20

・ 7/16(月)

米露首脳会談、北朝鮮問題、日米原子力協定などについて報じられました。例示したトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いました。特に問題のある場面は見られませんでした。また、北朝鮮問題については検証者の所感を記しました。

・ 7/17(火)

国会(カジノ整備法案と公職選挙法改正)、宮内庁、政治資金問題などについて報じられました。例示したトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いました。特に問題のある場面は見られませんでした。

・ 7/18(水)

改正公選法成立、改正健康増進法が成立などについて報じられました。例示したトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いました。特に問題のある場面は見られませんでした。

・ 7/19(木)

国会審議、日報隠蔽問題、トランプと欧州などについて報じられました。例示したトピックについて放送法第四条の観点から検証を行った所、国会審議については放送法第四条に照らして不十分と思われるところが見られました。また、国会審議と日報隠蔽問題については検証者の所感を記しました。

・ 7/20(金)

通常国会閉幕などについて報じられました。例示したトピックについては放送法第四条の観点から検証を行いました。特に問題のある場面は見られませんでした。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年7月16日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙、高橋尚子(スポーツ担当) ※駒田キャスターは愛媛県宇和島市から中継		
検証テーマ：米露首脳会談、北朝鮮問題、日米原子力協定		
報道トピック一覧 ・【最新】危険な暑さ続く ・西日本豪雨からの復興 ・米露首脳会談 ・【追跡】熊本産最女児殺害事件から7年 ・北朝鮮問題 ・日米原子力協定の自動延長 ・スポーツ報道 ・23Today 各地で猛暑日 猛暑が被災地での復旧 W杯、仏サポーターが一部暴徒化 「万引き家族」は枝監督、新作は全編フランスで撮影 羽田空港、滑走路に穴 ・天気予報		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 ・米露首脳会談：結論→特に問題なし トランプ大統領とプーチン大統領の一年ぶりの首脳会談がフィンランドのヘルシンキで行われていること、両首脳はウクライナ情勢やシリア内戦などで両国が対立してきた問題について話し合っていると見られていること、トランプ氏は階段前には核軍縮協議にも意欲を示していたことが報じられた。また、アメリカ大統領選挙へのロシアノ介入疑惑の捜査が続いているためアメリカ国内ではプーチン氏に歩み寄ろうとするトランプ氏の姿勢に批判が出ていること、ロシアはクリミア半島併合の強行に対して経済制裁が課せられ欧米から孤立している中でプーチン氏が停滞する経済の底上げにアメリカとの関係改善に解を求めた可能性があること、両首脳が孤立していく様子が泥沼にはまりお互いが手を取り合おうとする姿としてロシアの新聞で風刺画に描かれていることも伝えられた。 VTRを承けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。 雨宮塔子「はい、本格的な米ロ首脳会談は一年ぶりですが星さん、ある程度の成果は期待できるのでしょうか」 星浩「あの、今アメリカはですね中国と貿易戦争の状態に入っていますよね。それからヨーロッパともですね、貿易問題がある上に最近ヨーロッパにトランプさんが国防費を増やせっていうことを言ってまたそこでも摩擦ができていますね、一方そのプーチンさんのほうはクリミア問題以来ですね、孤立を深めてましてそれこそ		

孤立した同士が接近するんじゃないかとヨーロッパは心配してたんですが、どうも、そういう接近はそう簡単ではないようですね。」

雨宮塔子「なんでそう簡単じゃないんですか。」

星浩「アメリカですね、つい先日ですね、そのアメリカの大統領選挙にロシアの諜報機関が介入したという、なんと 12 人も起訴されて、これ大変な問題になっていましてね、トランプさんもこの状況でプーチンさんと接近するのはあんまり得策じゃないと判断していますので、どうも米ロ関係急接近というのはしばらく先になるようですね。」

また番組のクロージングでは米露首脳会談について以下に朱記した言及があった。

雨宮塔子「そしてこちらは米露首脳の見合が行われるフィンランドのヘルシンキの会場ですが星さん、まだはじまってないようですね。」

星浩「そうですね、シリアの内戦とかね核軍縮の問題、この二カ国がまとめてもらいたいですね。」

このトピックに当てられた時間は 187 秒で、放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。

・北朝鮮問題：結論→特に問題なし

北朝鮮の平壤郊外に秘密のウラン濃縮施設がある可能性が浮上し非核化の進展に懸念も広まっていること、非核化に向けて米朝首脳会談で合意したものの両国の隔たりが大きくなっていて北朝鮮の対外宣伝メディアは論評を掲載しアメリカが一方的に非核化を要求したと批判した上で非核化よりも朝鮮戦争の終戦宣言を優先すべきだと主張したこと、アメリカの安全保障専門サイトであるディプロマットが平壤郊外の平安南道千里馬に秘密のウラン濃縮施設が存在する可能性を指摘したことが報じられた。

またスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮塔子「シンガポールでの米朝首脳会談から一ヶ月以上も経つのですが非核化の進展が全く見られませんね。」

星浩「そうですね、今回明らかになったその秘密施設の問題なんですけれども実はですね、日本政府の高官によるとその北朝鮮が非核化の第一歩である、その申告、ここに何があるということを一切やっていない、この一ヶ月ですね、ということが明らかになっているんですね。こういうサボタージュが続きますとアメリカの国内でもね、米朝首脳会談一体何だったんだとトランプさんに向いてくる可能性がありますよね。」

このトピックに当てられた時間は 134 秒で、放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。

・日米原子力協定：結論→特に問題なし

日本が原発の使用済み核燃料からプルトニウムを取り出す再処理を認められている、日米原子力協定が今日、30 年の満期を迎え自動延長されること、核兵器に転用可能なプルトニウムについてはアメリカが日本の大量保有に懸念を示している一方で、日本政府は今月改定したエネルギー基本計画で保有量の削減に取り組むと初めて明記したとことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 33 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・北朝鮮問題

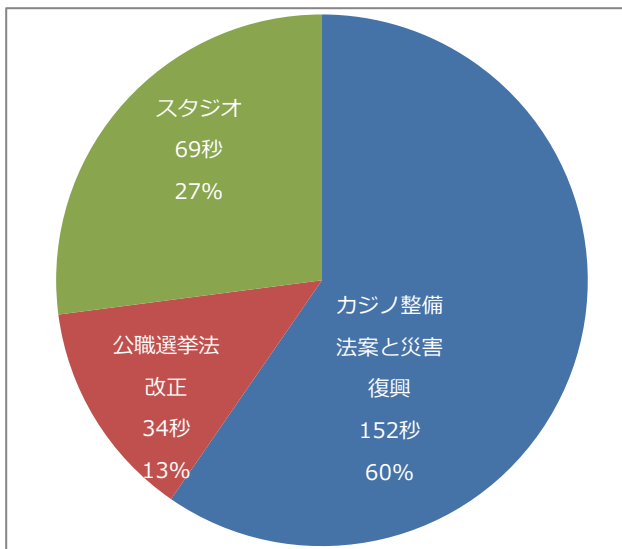
スタジオでのやり取りを聞いていると、トランプ政権の政策についてはずいぶんと冷ややかかつ批判的な論評が目立つように感じられる。もっとも、トランプに対しては大統領になる以前からメディアの報じ方は冷ややかで批判的なものであったのだが、そういった報じ方が実際にトランプ氏が大統領になっても続いているという印象を受ける。

今回の北朝鮮の非核化についてであるが、核の問題と言えばトランプの前のオバマ政権も「核なき世界」を掲げたり広島の新爆ドームに訪問するなどというパフォーマンスを行ったりしていたことが思い出される。他方でオバマ政権でも、現実的に非核化に向けてなにか動きがあったのかであるとか、非核化を実現するための説得力あるプランであるとか工程表を提示したかと言われると、そうしたことが十分行われていたかは甚だ疑問であった。しかし、メディアの報じ方はかなり好意的であり、実現可能性などについて批判的に報じるようなことは少なかったと記憶している。

民主党でリベラルとされるオバマ政権だから好意的に取り上げ、共和党や保守派の政権あるいはトランプ政権だから取り上げ方が批判的になっているのか、こうした印象は検証者である私の個人的なものなのかこの報告書の読者や一般の視聴者も抱いた印象なのか、こうした点については機会を設けて検証に値するテーマであると考え。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年7月17日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：国会(カジノ整備法案と公職選挙法改正)、宮内庁、政治資金問題		
報道トピック一覧 ・危険な暑さ ・【現場から、西日本豪雨災害】 災害からの復旧 緊急放流の判断は適切だったのか ・国会：カジノ整備法案と公職選挙法改正 ・東京杉並区のクリニックで肺がんを3回見落としにより女性死亡 ・「フィアンセではない」宮内庁、異例の指摘 ・日大の新監督は立命館から橋詰功氏 ・古屋圭司氏の政治資金 ・スポーツ報道 ・23Today 猛暑 被災地 ハワイ火山ツアー中、ボートに溶岩直撃 札幌市、ひき逃げ事件で警官逮捕 女優・生田悦子さん(71)死去 ・天気予報		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 ・国会：結論→やや不十分 国会での審議や与野党の攻防について報じられた。このトピックについて当てられた時間は255秒で、このトピックはカジノ整備法案と災害復旧、公職選挙法改正、スタジオでの発言の3つのポイントに大別でき、それぞれのポイントへの時間配分及びその比率は以下の通りであった。		



カジノ整備法案と災害復興については立憲民主党の白眞勲参院議員による質疑で以下に朱記したシーンが取り上げられた。

ナレ「野党側はなぜ今カジノ整備法案を急ぐ必要があるのかと迫及します。」

白眞勲(立憲民主党参院議員)「自民党と公明党は完全に人命よりはカジノ、要は賭博優先だとしか言いようがないんです。」

ナレ「カジノ整備法案を所管しているのは豪雨災害の対応を担う国土交通大臣。野党側は法案の採決を先送りして災害復旧を優先するよう求めます。」

白眞勲「これだけ大きな災害が生じている最中、私達はこのカジノ法案の審議は先延ばししましょう、と」

安倍総理「委員会が開催されることによるですね、そうした支障、活動自体に支障は及んでいない、というふうに考えております。」

また、災害対応を巡って共産党の辰巳孝太郎参院議員による質疑で以下に朱記したシーンが取り上げられていた。

ナレ「災害対応を巡ってはこの写真の懇親会にも迫及が及びました、豪雨による避難指示が出始めていたいつか夜の対応を問われた安倍総理は」

安倍総理「いかなる事態にも対応できるよう万全の体制にあたってきた、対応にあたってきたところであります。」

辰巳孝太郎(共産党参院議員)「総理、午後二時に気象庁が異例の記者会見をしたということを知っていたというなら、なぜこのような酒席は中止しろと言わなかったのですか。」

辰巳孝太郎「政府全体として必要な警戒態勢をしきその後も被害の拡大を想定して政府の対応体制を拡大するなどいかなる事態にも対応できる万全の体制で対応にあたってきたところでございます。」

辰巳孝太郎「政府全体といたしますけれども、まさに総理がその会合に出席していて官房副長官も出席していて、防衛大臣もお酒飲んでたんですよ、これについては総理、全く不適切だとは思わないということなんですか。」

安倍総理「政府としての対応はですね、まさに今申し上げましたように、いかなる事態にも対応できる万全の体制で対応にあたっ」

ナレ「万全の体制を繰り返し、迫及をかわした安倍総理、カジノ整備法案について与党側は明日にも採決に持ち

込む構えです。」

公職選挙法改正については以下に朱記したシーンの VTR が取り上げられていた。

ナレ「一方、もう一つの重要法案、参議院の議員定数を六増やす公職選挙法の改正案は」

平沢勝栄「採決をいたします、法案に賛成の諸君の起立を求めます、起立多数よって法案は原案の通り可決されることと決しました。」

ナレ「与党側は明日、本会議で成立させる考えで与野党の攻防は最終局面を迎えています。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮塔子「参議院の定数を六増やす法案ですが、明日本会議ですんなりと成立するのでしょうか。」

星浩「ま、成立することは確実なんですけど、その自民党の中で異論が表面化したんですね、船田元さんというベテランの議員がいるんですけれども、船田さんがですね、明日の本会議に棄権をするということを表明したんですね、その理由は今度消費増税で国民に新しい負担を求めるときに国会の定数を増やすのはどうか、理解を得られないんじゃないかな、という理由なんですけれども自民党の中に一石を投じるつもりなんだけど広がるかどうかはわからないと言っていましたね。」

このトピックについて当てられた時間は 255 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・宮内庁が異例の指摘：結論→特に問題なし

小室圭さんが今月アメリカに渡り弁護士資格の取得を目指しておよそ三年間ニューヨークにあるフォーダム大学のロースクールに留学することを受けてフォーダム大学が今月 5 日ホームページ上で眞子さまと婚約していることを表すフィアッセという言葉を使って紹介したこと、皇室では伝統的に納采の儀と呼ばれる儀式を経なければ正式に婚約とはならないことから宮内庁はまだフィアッセではないとして近くフォーダム大学に正確な事実関係を説明するとしていることが報じられた。このトピックについて当てられた時間は 81 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・政治資金問題：結論→特に問題なし

自民党の古屋圭司衆院議員の事務所が政治資金パーティの収入を政治資金収支報告書に実際の収入の半分程度に過小に記載した疑いがあると今朝の朝日新聞が報じたこと、この件について古屋圭司衆院議員は「政治資金報告書とそれから入金状況、確認させました。ほとんど差がありません。従って、記事で言うような過少申告はないというふうに認識しております。」とコメントして報道内容を否定していること、野党側は国民が納得する説明がない限り審議には応じないと明確な説明を求めているとことが伝えられた。

またスタジオでは以下に朱記したやり取りが取り上げられた。

雨宮塔子「古屋議員は議院運営委員長、責任のある立場ですよ。」

星浩「そうですね、議院運営委員長っていうのはまあ国会の運営を仕切るキーパーソンですからね。このパーティ券の売上をね、過小に報告するっていうやり方は昔から永田町で言われていた話なんですけれども、古屋さんもしそういうことがないっていうのであれば、事務所におそらく資料が残っているはずですからね、その資料を元にきちんと説明する必要があると思いますね。」

NEWS23 週刊報告 詳細版

このトピックについて当てられた時間は 67 秒で放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

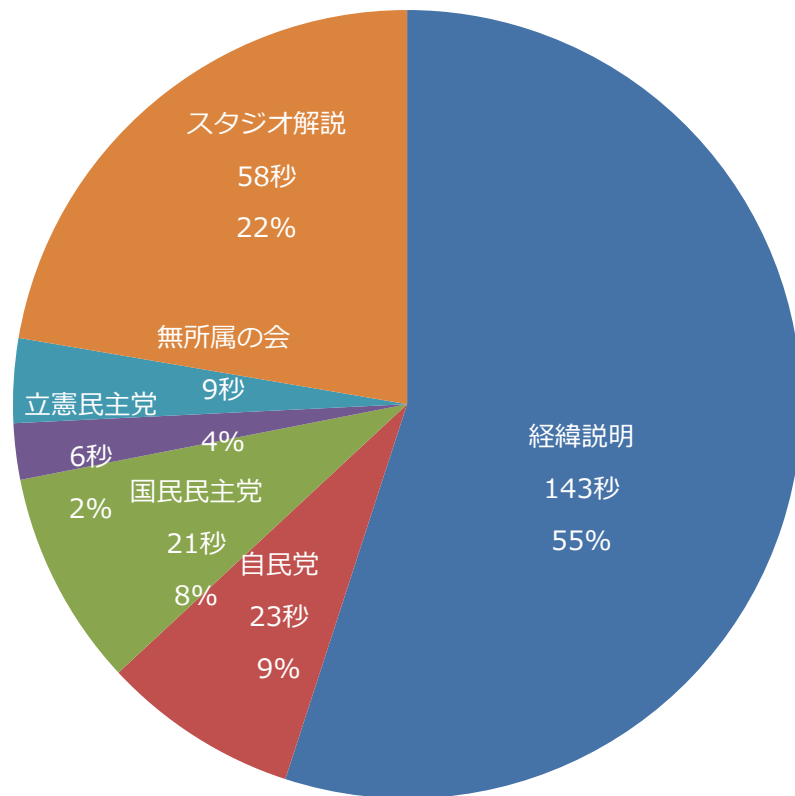
特になし

検証者所感

特になし

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送：2018 年 6 月 20 日
出演者：【キャスター】皆川玲奈、駒田健吾、雨宮塔子、星浩、宇内梨沙		
検証テーマ：改正公選法成立、改正健康増進法が成立		
報道トピック一覧 ・各地で猛暑続く ・西日本豪雨災害 ・改正公選法成立 ・浅利慶太氏死去 ・タイ北部洞窟 13 人救助 ・芥川賞と直木賞が決定 ・大阪北部地震から 1 ヶ月 ・新国立競技場の建設現場が公開 ・銀行マンと母親を逮捕 ・改正健康増進法が成立 ・スポーツ報道 ・23Today ・日露戦争期のロシア戦艦が発見 ・W 杯ブラジル代表の母が誘拐 ・本田選手が投資ファンドを設立 ・天気予報 ・【速報】東京五輪マラソン競技の開始時間を 7 時に		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 ・改正公選法成立→結論：特に問題なし 今回は参議院の定数を 6 増やす公職選挙法改正案が可決、成立したことが伝えられた。このトピックに当てられた報道時間は 260 秒であった。今トピックでは国民民主党、自民党、立憲民主党、無所属の会の批判が焦点が当てられた内容であった。それぞれの時間配分は以下の通り。		



各政党の批判内容は以下の通り。

大塚耕平共同代表（国民民主党）「自民党内の重鎮が流石にこの内容には賛成できないと。これほど乱暴な決着をつけようとしている中でその差配をする衆議院の議院運営委員長こちらの不祥事もまた発覚している。」

船田議員「理由の如何を問わず、定数増は国民に理解されるものではありません。」

亀井亜紀子議員（立憲民主党）「そもそも今回の選挙制度改革には大義がありません。」

本村賢太郎議員（無所属の会）「定数増という耳を疑うような自民党の提案はまさに権力ボケ以外の何物でもありません。」

小泉進次郎議員（自民党）「党の決定に従って賛成票を投じましたが、改めて国会改革をやらなければいけないなという決意を新たにする意味での賛成でしたね。」

スタジオ解説の内容は以下の通り。

雨宮「星さんが昨日おっしゃっていましたが、自民党内の造反は船田氏だけで他には広がらなかったですね。」

NEWS23 週刊報告 詳細版

星「そうですね。理由は 2 つくらいあると思います。一つは、9 月には総裁選がありまして、その後には内閣改造もあるということであんまり執行部に睨まれたくないという議員心理が働いたと思います。もう一つは参議院の定数が増えますので、定数が増えるというのは選挙の競争が比較的楽になるという意味でして、議員としてはいいかなというようなことなんですけれども、どうも短期的な判断ですよ。」

駒田「そういった政治家の都合が見え隠れする中で、消費税は増えていく、人口は減っていく。その中で定数増、これは批判は強いですよ。」

星「参議院の選挙は来年、ちょうど 1 年後ですので時間が経てば忘れるだろうということなんでしょう。しかし、こういう選挙制度という基本的な問題を活発な議論をしなかったという点では私は長期的に見ると自民党にとってはマイナスの判断だったかなという気がします。」

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

- ・改正健康増進法が成立→結論：放送法第四条の検知から問題なし。

今回は改正健康増進法が可決、成立したことが伝えられた。今トピックに当てられた報道時間は 33 秒であった。なお、今回は経緯説明のみの内容であった。

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし。

検証者所感
特になし。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年7月19日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：国会審議、日報隠蔽問題、トランプと欧州		
報道トピック一覧 ・【独自】銀行員と母、庭に妻の遺体 ・京都で39.8℃を記録、各地で熱中症の死者も ・世界各地で異常気象 ・【現場から、西日本豪雨災害】93歳女性救助 ・国会審議 ・【追跡】イラク派遣、日報隠蔽問題 ・トランプと欧州 ・【速報】ソチ五輪銅メダリスト視察、路上で二人と言い争い ・新しい「カーネルサンダース」像 ・スポーツ報道 ・23Today 銀行員と母、庭に妻の遺体 記録的猛暑 ゴミ置き場に遺骨を捨てる、石材業者の男逮捕 空を飛ぶジェットスーツ販売、ロンドンの高級デパートで 「日本昔ばなし」名語り手常田富士男さん死去 ・天気予報		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 ・国会審議→結論：やや不十分 スタジオでの雨宮塔子の「明日で事実上の会期末を迎える国会。いわゆるカジノ法案の採決を前に野党はこの三枚のカードを使って最後の抵抗を試みています。」、駒田健吾「参議院では伊達議長の不信任決議案、衆議院では古屋議運委員長の解任決議案、そして安倍内閣への不信任決議案です。」というコメントで導入がなされVTRでは以下に朱記したシーンが取り上げられていた。 委員「只今議長の不信任が出ましたので質問はこれで打ち切ります」 ナレ「カジノ整備法案を審議していた委員会は突然中断、原因は野党が切った最初のカードでした」 大塚耕平(国民民主党共同代表)「このような資質と姿勢の議長を放置することは国民と国会にとってギャンブルのようなものです。伊達忠一くんを不信任とすることが適当と考えます。」 ナレ「伊達忠一参議院議長の不信任決議案です、野党は不信任の理由として災害対策よりもカジノ整備法案の審議を優先させたことや昨日成立した参議院議員の定数を6増やす改正公職選挙法をめぐり与野党の対立を回避するための努力を怠ったことなどを挙げています。」		

放送法遵守を求める視聴者の会

ナレ「しかし、」

委員「本決議案は否決されました。」

ナレ「その後再開された委員会では」

委員「これより採決に入ります」

ナレ「怒号が飛び交う中カジノ整備法案は与党の賛成多数で可決。一方、衆議院では二枚目のカードが切られました。」

辻元清美(立憲民主党国対委員長)「安倍総理も逃げ切りを図ろうとしていて議運委員長もですからね。まあ、私はどこまでも追いかけますよ。」

ナレ「政治資金パーティの収入を過少申告したのではと報じられた衆議院の古屋議院運営委員長の解任決議案です。」

委員「否決されました」

ナレ「しかし、これもあっさり否決・野党に残されたカードはあと一枚です。」

玉木雄一郎(国民民主党共同代表)「自分たちの組織に有利に使うという、そういったことが蔓延してきているのが今の国会の姿ではないでしょうか。不信任案を本日提出することも含めて野党の中でしっかりと考え方をまとめていきたいと。」

ナレ「野党は明日、内閣不信任案を提出する方針です。」

またスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮塔子「最後のカードも数の力で押し切られるのでしょうか」

星浩「まあ、与党が圧倒多数ですからね、野党の抵抗にも限界はあるということですね。カジノ法案はね、あの国民の依存症に対する懸念とか払拭されていませんのでね、そういう意味では国会の審議が今ひとつ不十分だったのかなというところがありますよね。」

駒田健吾「参議院というのは良識の府というふうに言われていてこれまでも例えば与野党が対決していて、それでも合意点を見出すようなそんな努力がされてきたんですよ。」

星浩「そうですね、やっぱり伊達議長の責任は重いと思いますよね、衆議院で与野党が非常に対決して参議院では妥協するというケースが今までありましたね。とりわけ今回は参議院の定数を6増やす法案がありまして、これはルール作りですからね、やっぱり議長が中心になって与野党の合意づくりを進めるという努力をしてもらいたかったですけど、そういうリーダーシップは発揮されませんでしたね。」

また、番組のクロージングでは星キャスターが「明日は国会が事実上最終日なんですね。まあ、半年続いたこの国会がね、国民の期待にどこまで添えることができたですねえ。」とコメントしていた。

このトピックに当てられた時間は 254 秒だった。

VTR では肝心のカジノ整備法案の中身についての議論はなく、カジノ整備法案を巡る国会の動きのみが報じられていた。単に与野党が対立しているとはいうものの、その争点がどこにあるのかという点がほとんど示されずに「参議院というのは良識の府というふうに言われていてこれまでも例えば与野党が対決していて、それでも合意点を見出すようなそんな努力がされてきた」、「衆議院で与野党が非常に対決して参議院では妥協するというケースが今までありました」などと言われても片手落ちであろう。そもそも、争点がどこにあるのか、それは妥協可能性があるように思えるものなのかを示さずに、非妥協的な姿勢を批判するのみという報じ方は、放送法第

四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点からは不十分であると言えるだろう。

・日報隠蔽問題：結論→特に問題なし

JNN が情報公開請求で入手したルメイサ事件の映像が取り上げられた他、この映像が国会でも取り上げられたこと、自衛隊の日報隠蔽問題について過去の国会審議での当時の民進党の牧山弘恵参院議員による「陸自の根深い隠蔽体質というものが現政権の情報公開を重視しない姿勢、この共通性のものを感じます。」という発言が取り上げられていた。

また、イラク派兵については当時、内閣官房副長官補としてイラク派遣に関わっていた柳澤協二氏の「戦闘地域とは言えないけれどもそれは安全地域ではないということですね。命の危険というのは絶えずあったんだろうとおもうんですね。」というコメントやイラク復興業務支援初代隊長を務めた元自衛官の佐藤正久参院議員の「戦闘行為というレベルと安全の間の部分が国連 PKO やあるいは今回のイラク人道復興イセンという活動だったと思います、まさに映像とかデータも行政文書。米軍と同じようにある程度年数がたったら、そこは公開できるものはしっかり公開するという形は大事だと思います。」というコメントが取り上げられていた。

このトピックについて当てられた時間は 393 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・トランプと欧州：結論→特に問題なし

アメリカのトランプ大統領は来週 25 日に EU、ヨーロッパ連合のユンケル委員長と会談するのを前に、ヨーロッパ車に対する関税の大幅な引き上げを警告した一方で EU は先月にアメリカが鉄鋼やアルミニウムへの関税を引き上げたことに対して報復措置を講じていて貿易摩擦が激化していること、アメリカの中央銀行である FRB は全米 12 のすべての地区の製造業者が関税の引き上げを懸念していて多くの地区で原材料の価格上昇や調達を巡る問題が発生していると明らかにしたとのことが報じられた。このトピックについて当てられた時間は 74 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・国会審議

なお、スタジオでの駒田キャスターの「参議院というのは良識の府というふうに言われていてこれまでも例えば与野党が対決していて、それでも合意点を見出すようなそんな努力がされてきた」であるとか、星キャスターの「衆議院で与野党が非常に対決しても参議院では妥協するというケースが今までありました」という発言については部分的には正しいものであった。しかし、与野党が対決していても合意点を見出すような努力がされたケース、参議院では妥協するケースというのは、その時々政治的な状況、例えばねじれ国会に代表されるような国会での勢力図の事情や派閥あるいは参議院自民党を含めての党内の力関係などがあった上での妥協であり、そ

の最たる例は政権与党が参議院で過半数を確保できない「ねじれ国会」であろう。また、参議院の議長職についても政党政治から距離をおいた会派・緑風会から長老格が選出された時代、重宗雄三議長のように「参議院のドン」として党内でも大きな権力を握っていた時代もあれば、最近では参議院の実力者が参議院議長ではなく「参議院議長を指名し得る与党の参議院議員団長」であることを選ぶ一方で参議院議長は「上がりポスト」となっている。

このように、これまでの参議院と一言に言ってもその時々議長の観や議席状況によるところが大きく、議長観も議席状況も全く異なるケースを持ち出しての「かつてはこうだった」という議論にいかほどの価値があるのかは甚だ疑問であるし、「上がりポスト」に参議院議長にリーダーシップを発揮するだけの力があるのかも疑問に感じた。

また、三枚のカードとして参院議長の不信任案、古屋議院運営委員長の解任決議案、内閣の不信任案が取り上げられていたが、そもそも与党が過半数を抑えている中でこれらのカードを普通に切った所で実効を奏するはずもないことは明白である。仮に野党が本気でカードとして使うのであれば、例えば与党の中の反主流派や「冷や飯食い」あたりに造反工作を仕掛けるなど、不信任案が可決するように下準備を行わなければ到底可決する見込みもないわけで、それが分かっているポーズとして不信任案や解任決議案をちらつかせるという、いかにも 55 年体制の八百長の古い政治手法に対する有権者の反発、あるいはそうした古い政治と訣別しようという有権者及び政治家の思いこそが 1990 年代の政治改革の原動力となっただけではなかったのだろうか。今回の 3 枚のカードという取り上げ方からは、そうした古い政治へと回帰、そしてそれをよしとするような雰囲気が感じられたが、だとすると 90 年代の政治改革の熱は一体何だったのだろうか。

・日報隠蔽問題

イラク派兵から今日に至るまでには自民党政権の時期もあれば民主党政権の時期もあったわけで、「陸自の根深い隠蔽体質」が事実だとしても、それに自公政権も民主党を中心とした政権も切り込めなかった。牧山参院議員の「陸自の根深い隠蔽体質というものが現政権の情報公開を重視しない姿勢、この共通性のものを感じます。」というコメントは確かに一つの見解ではあるものの、では安倍政権以外の政権での陸自の隠蔽体質は不問に付されるのかという話にもならないわけである。このように考えると、やや一方的なものであり、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であることに抵触するとまでは断言できないものの、全く問題がないとも言えないものだった。

今回の陸自の隠蔽体質の問題のみならず、官僚機構でなにか不祥事が起きた場合は「体質」と関連付けられてニュースで取り上げられる割には現政権のみを批判的に扱うような報じ方が目立つように思える。

官僚機構の体質に起因するような問題こそ政権交代によって膿を出し切ることが期待され、またそうした可能性があるからこそ官僚機構も政権が変わっても安定・継続的な行政が行えるように自ずと襟を正すのではないだろうか。そう考えると、いやしくも政権政党・首班選出政党に所属していた人間が、自分たちの政権下においても行われていた隠蔽について、官僚機構の体質の問題としながら現政権のみを批判するような言説を唱えるというのはいかがなものだろうか。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局： TBS テレビ	番組名： NEWS23	放送日： 2018 年 7 月 20 日
出演者： 星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ： 通常国会閉幕		
報道トピック一覧 ・【学校のモンダイ】猛暑で相次ぐ熱中症 学校現場で遅れるエアコン設置 ・西日本豪雨 被災した高校球児の夏 ・国会閉幕 ・嵐の松本潤さん被災地へ 避難所をサプライズ訪問 ・東京五輪のチケット価格決まる ・ソチ五輪男子フィギュア銀メダリスト刺殺される ・スポーツ報道 ・23Today 学校現場のエアコン設置状況 嘘の離婚届で女(44)逮捕 自宅から遺体 大塚製薬が「オロナミン C」回収。開栓時にけがの恐れ ・気象情報		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 ・通常国会閉幕：結論→特に問題なし 今回の報道は通常国会閉幕についての報道であり、このトピックについて当てられた時間は 404 秒だった。なお、今回は対立点や論点などは特に見られず、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。 スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。 雨宮キャスター「182 日間に及んだ国会も事実上閉幕しました」 駒田キャスター「成立した主な法案はこちらです。たとえば働き方改革関連法案ですとか、公選法改正ですとか、こういうものがあります」 星キャスター「働き方改革法案とか安倍内閣の成長戦略に即すという話でしたが、ちょっと国民目線からすると、働き方改革、もうちょっと長時間労働や過労死の規制といったものに力を入れてほしかったという国民の感覚からのずれ、そしてカジノ整備が経済の成長に資するというのもどうかなというのがありまして、今回国民の意識と政権の意識にずれが見られたかなという気がしますね。」 雨宮キャスター「政権をめぐる疑惑が次々と表面化した国会でもありましたね」 駒田キャスター「森友問題では財務省の文書改ざん問題が発覚し佐川前長官が証人喚問されました。加計問題では愛媛県の文書が公表されました」 星キャスター「森友問題では、国有地の値引き問題がありましたね、これに昭恵夫人がどう関与していたか、そして財務省の文書改ざん問題がありました。もう一度値引きの問題、改ざんの問題については、財務省の調査や		

放送法遵守を求める視聴者の会

大阪地検の捜査がありましたが、昭恵夫人の問題については本人が拒否していることもあり、明らかになっていない。加計問題も含めると、まだまだ未解明な部分があるわけですが、その一因はやはり野党がどうも詰め切れなかったかな。野党第一党が分断されていたから、野党の力不足が露呈した国会だったかなと思います」

雨宮キャスター「野党が弱く、重要法案が次々に決まっていきましたが、終わってみれば安倍総理のペースだったということでしょうか」

星キャスター「私が思うに、その一方でこの国会の陰の主役というのがいて、それは憲法問題だったと思うのですね」

駒田キャスター「その憲法問題については、安倍総理は先ほど次のように話しています。『次の総裁選で大きな争点となる』と言うことで今後の日程には触れることはありませんでした。」

星キャスター「もともと安倍総理は憲法 9 条に自衛隊を書き込むという改正をしたいと思っていて、この通常国会でその議論をし、来年の通常国会で憲法改正を可決し、国民投票にかけようというのが安倍総理の考えていたスケジュールだったのですが、この国会では憲法議論は進まなかった。やはり憲法は国会の 3 分の 2 で可決するだけではなく、発議するものですから、国民が国会がどう考えているかを知るためには、与野党の大方の合意が必要なわけですが、安倍さんは今回与野党の対立をどんどん強めてきましたから、結局憲法問題も進まず、場合によっては安倍政権のこの旗柱がだんだん無くなってくるかもしれない、という面も今回国会を通じて明らかになったかと思いますね」

また番組のクロージングでは星キャスターが「国会の最後で枝野さんがね、長時間の演説をしていましたけど、できれば国会の中で与野党が噛み合う論争をしてもらいたかったですね。」とコメントしていた。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・通常国会閉幕

星キャスターの「私が思うに、その一方でこの国会の陰の主役というのがいて、それは憲法問題だったと思うのですね」というコメントについて、星キャスターがそのように思っていたのはいつ頃からだったのか、気になった。もし、ずっとそのように感じていながら、そうした見方を示さずに国会が終わって「今回の影の主役は憲法だったと思います」と後出しで種明かしをするというのは、報道の姿勢としてはどうなのか、という感じはした。